

かみっこ

令和 6 年 5 月 24 日

「勉強しよう」という気持ち

愛知 慶介

2014年に始まった東大などによる「子どもの生活と学び」に関する調査によると、「勉強しようという気持ち」がわからない」と答えた子ども(小学校4年生から高校3年生)が2019年以降増加し、2022年には6割を超えてしまったという結果があります。さらに、別の質問「上手な勉強の仕方がわからない」と答えた割合も同様に増加し、こちらは7割を超えました。具体的には、以下の「勉強の仕方」について、「できていない」と答えていました。

援助要請	考えても分からないことを聞く
メリハリ	遊ぶときは遊び、勉強するときは集中して勉強する
解き直し	間違えた問題をやり直す
反復	繰り返して書いて覚える
モニタリング	何が分かってないか確かめながら勉強する
社会的に	友達と勉強を教えあう
自己調整	自分に合った勉強のやり方を工夫する
順番	何から勉強したらよいか順番を考える
プランニング	計画を立てて勉強する
意味理解	問題を解いたあと、ほかの解き方がないか考える
深化	授業で習ったことを、自分でもっと詳しく調べる



このうち、2021年から2022年にかけて、「勉強しようという気持ち」が下がった小学生は、「計画を立てて」「順番を考えて」「何が分かってないか確かめながら」「自分にあった勉強のやり方を工夫」という勉強の仕方ができていないと答えた割合が高いことが分かりました。逆に、これらの学習方法が「できる」と回答した子どもは、連動して「勉強しよう」という学習意欲が向上し、成績も上昇していることも明らかになりました。つまり、上手な勉強の仕方を支援することで、学習意欲・成績がアップすることが期待できるのです。

神岡小学校では、子どもの意識、学校の状況をはかる「ものさし」として、本年度は6月、10月、2月に児童の意識調査(アンケート)を実施する予定です。学習にかかわっては次の9項目です。

1	わたしは、授業が楽しい。 (新しいことを知ることができて、できるようになって、話し合うことができてなど) □
2	わたしは、チャイムが鳴り終わる前に着席し、学習準備をしている。(低) わたしは、チャイムが鳴る前に着席し、授業準備をしている。(中・高)
3	わたしは、授業の内容を理解できている。
4	わたしは、話す人の意見を最後まで聴いている。
5	わたしは、結論に根拠(わけ)をつけて話している(書いている)。□
6	わたしは、対話活動など自分にあった方法で考えを深めようとしている。 (仲間と対話する・ノートや教科書と対話する、じっくり自分で考えるなど)
7	わたしは、分からないことを自分から質問したり、調べたりしている。
8	わたしは、毎日、家庭学習(宿題など)に取り組んでいる。
9	わたしは、土日の「自分学習」について、自分で学習することを決めて取り組んでいる。

来月、子どもたちは、これらの質問にどう回答するでしょうか。6番目、7番目の項目は、まさに授業中における「勉強の仕方」で、合言葉の「自ら考える」にも通じます。

本年度も子どもたちが自ら考えようとする魅力ある授業を積み重ねること、自分から質問しなくなったり、自分で考えなくなったり、考えを深めなくなったりする授業をめざしていきます。また、勉強の仕方が身に付く、「わからないときは質問しようか」「どんな順番でやるといいかな」「間違えた問題をやり直してみようか」「ほかの解き方を考えてみよう」「自分でもっと調べるなんてすばらしいね」こんな声かけを学校でも、家でも大切にしていきたいと思ひます。

【あそらのそらのした】
四月の終わり、「憲法のころをどう伝えるか？」という見出しの一面にあった「あなたには、あなたの人生の主人公」という新聞の言葉に引き付けられました。この言葉、「すべての国民は、個人として尊重される」という憲法十三条が理想とする「個人」について、弁護士の宮尾耕二氏が考えた言葉です。記事にはさらに「言葉が続いていました。十二条へ憲法が保障する「自由」は「したいことをする自由」じゃない。それは「なすべきことをする自由」あなたには、他の人をしあわせにするのでしあわせになれる。他の人の不幸をわちあつて自分の不幸も乗り越えられる。それが「生きがい」です。そして、十九条へ何をなすべきか：それは自分で決める。それを決められるのは、あなただけ。小学校六年間の学び、様々な経験、人との関わりを重ねていくことが、「人生の主人公は自分である」と思う心を育むことや、自分なすべきことを自分で決める大切な力を育むことにつながるようでありたい。神岡小学校の六年間が、児童一人一人の未来につながるかけがえのないものとなるように、そんな思いを強くした。言葉との出会いでした。